

地方独立行政法人
埼玉県立病院機構

埼玉県立 小児医療センター

Saitama Prefectural Children's Medical Center



診療のご案内

2025



病院長あいさつ

埼玉県立小児医療センター 病院長 岡 明



埼玉県立小児医療センターは、1983年に全国でも5番目の小児病院として岩槻市（現 さいたま市岩槻区）に開院し、その後の小児医学医療の進歩に対応し、さらに地域の期待に応えるために、2016年には現在のさいたま新都心の新病院に移転しました。40年間にわたり埼玉県内では唯一となる小児医療専門の第三次医療施設として、質の高い小児医療並びに地域と連携した小児保健・発達支援活動などを子どもの目線で提供してまいりました。2021年には他の県立3病院とともに、地方独立行政法人埼玉県立病院機構に組織替えをいたしました。新組織では経営の効率化なども図りながら、引き続き当センターに期待される役割を果たすべく、職員一同気持ちを新たに努めているところです。

当センターの理念は「For the future, for the children こどもたちの未来は私たちの未来」です。我が国を始め多くの国々では少子化が進行しており、少ない子どもたちを健全に育てることが社会の将来を考える際に大きな課題となっています。社会の未来は子どもたちにかかっており、こども家庭庁が創設されるなど国を挙げて次世代の健全な育成への取組が進む中で、当センターの理念の社会的重要性はさらに増してきております。当センターは、小児医療と保健の面から、子どもたちとそして社会の未来を支える役割を担っています。

当センターでは、高度で専門的な医療を提供するために、内科系外科系の小児新生児医療の専門家が根拠に基づいた医療を提供しております。特に周産期医療については、隣接するさいたま赤十字病院と緊密に連携を取り、総合周産期母子医療センターとして母体・胎児・新生児のあらゆる疾患に対応できる周産期の三次救急医療機関としての役割を担ってきております。体重数百グラムといった超低出生体重児の診療や、新生児期の心臓・消化器等の多様な疾患に対する外科的な治療を積極的に行っております。

小児救命救急センターは、三次医療機関として、365日24時間体制で地域が安心できる小児救急医療を地域医療機関に協力いただきながら実践しております。当センターの各部門の力を結集したチーム医療を行い、小児集中治療室を中心として高度医療を進めてきております。また、子どもの成長と発達にとって必要な保健・発達支援などの幅広い活動も行ってきました。

さらに国の小児がん拠点病院として、小児がん治療のための無菌病床を設置するとともに、がんゲノム医療連携病院の指定による最新のゲノム医療や、最新の遺伝子治療の導入なども進め、国内でもトップクラスの患者さんの診療実績を有する施設となっております。2019年度より新たな取組として移植センターを開設し、さいたま赤十字病院と協力して小児の生体肝移植を開始し順調に成果を挙げてきております。

病院内には、ご家族の滞在施設であるドナルド・マクドナルド・ハウスさいたまが配置されており、希望されるご家族にはご利用いただいております。入院している子どもたちは、併設されているけやき特別支援学校で、治療中も途切れなく教育を受けることが可能となっており、こうした療養環境にも配慮しております。

こうした当センターの円滑な運営には、患者さんとそのご家族のご理解とご協力が不可欠ですので、今後ともよろしくお願いいたします。

当センターのこれまでの歴史は、地域医療機関始め関係機関の皆様のご指導・ご協力の賜物であり深く感謝申し上げます。引き続き当センターは小児の健康と保健を支える「最後の砦」としてみなさんの期待に応えられるように努めてまいりますので、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



病院の理念

For the future, for the children

こどもたちの未来は私たちの未来



基本方針

1 質が高く、信頼される医療を行います。

- 根拠に基づいた高度で専門的な医療を行います。
- 地域医療機関での対応が困難な医療を行います。
- 地域が安心できる小児救急医療を行います。
- 安全性を優先した医療を行います。

2 地域との連携のもと小児保健、発達支援を推進します。

- 子どもたちの健康増進、病気の予防、早期発見並びに発達支援に取り組みます。
- 地域の医療、保健並びに療育機関への支援、情報提供を行います。
- 小児医療、保健に携わるスタッフの育成を支援します。

3 発育、発達にあわせた良質な環境を提供します。

- 子どもの生活の場としての良質な医療環境を保障します。
- 子どもの年齢に応じた遊びや教育の機会(病弱特別支援学校の併設)を確保します。
- ご家族のための宿泊を援助します。

4 子どもの人権を尊重します。

- 子どもの権利を平等に尊重します。
- 十分な情報提供と説明を行い、同意のもと医療を行います。
- 身体的にも、精神的にも子どもに負担の少ない医療を心がけます。
- 入院期間を短縮し、面会時間をできるだけ多くします。
- 個人情報を守られる権利、診療内容を知る権利(診療録開示)、他の医療機関の意見を求める権利(セカンドオピニオン)を保障します。

診療のご案内 | 目次

病院長あいさつ
 病院の理念・基本方針
 沿革
 施設の概要
 組織図

受診のご案内

患者紹介・予約方法について	01
外来診療日程のご案内	02
セカンドオピニオン外来について	03
各種センターのご案内	04

診療科のご案内

総合診療科	07	形成外科	22
新生児科	08	泌尿器科	23
代謝・内分泌科	09	耳鼻咽喉科	24
消化器・肝臓科	10	眼科	25
腎臓科	11	皮膚科	26
感染免疫・アレルギー科	12	移植外科	27
血液・腫瘍科	13	小児歯科	28
遺伝科	14	集中治療科	29
循環器科	15	救急診療科	30
神経科	16	外傷診療科	31
精神科	17	麻酔科	32
小児外科	18	放射線科	33
心臓血管外科	19	病理診断科	34
脳神経外科	20	臨床検査科	35
整形外科・リハビリテーション科	21	臨床研究部	36

コ・メディカル等のご案内

看護部	37	地域連携・相談支援センター	48
保健発達部	40	入退院支援センター	49
放射線技術部	43	感染管理室	50
検査技術部	44	医療安全管理室	51
薬剤部	45	TQM推進室	51
栄養部	46	治験管理室	51
臨床工学部	47		

各種ご案内

院内保育室のご案内	52	キッズランドショップ(売店)のご案内	53
病棟保育のご案内	52	施設のご案内	54
ボランティア活動	52	病院キャラクター	56
埼玉県立けやき特別支援学校のご案内	53	ホームページのご案内	57
ドナルド・マクドナルド・ハウスさいたまのご案内	53	交通のご案内	58

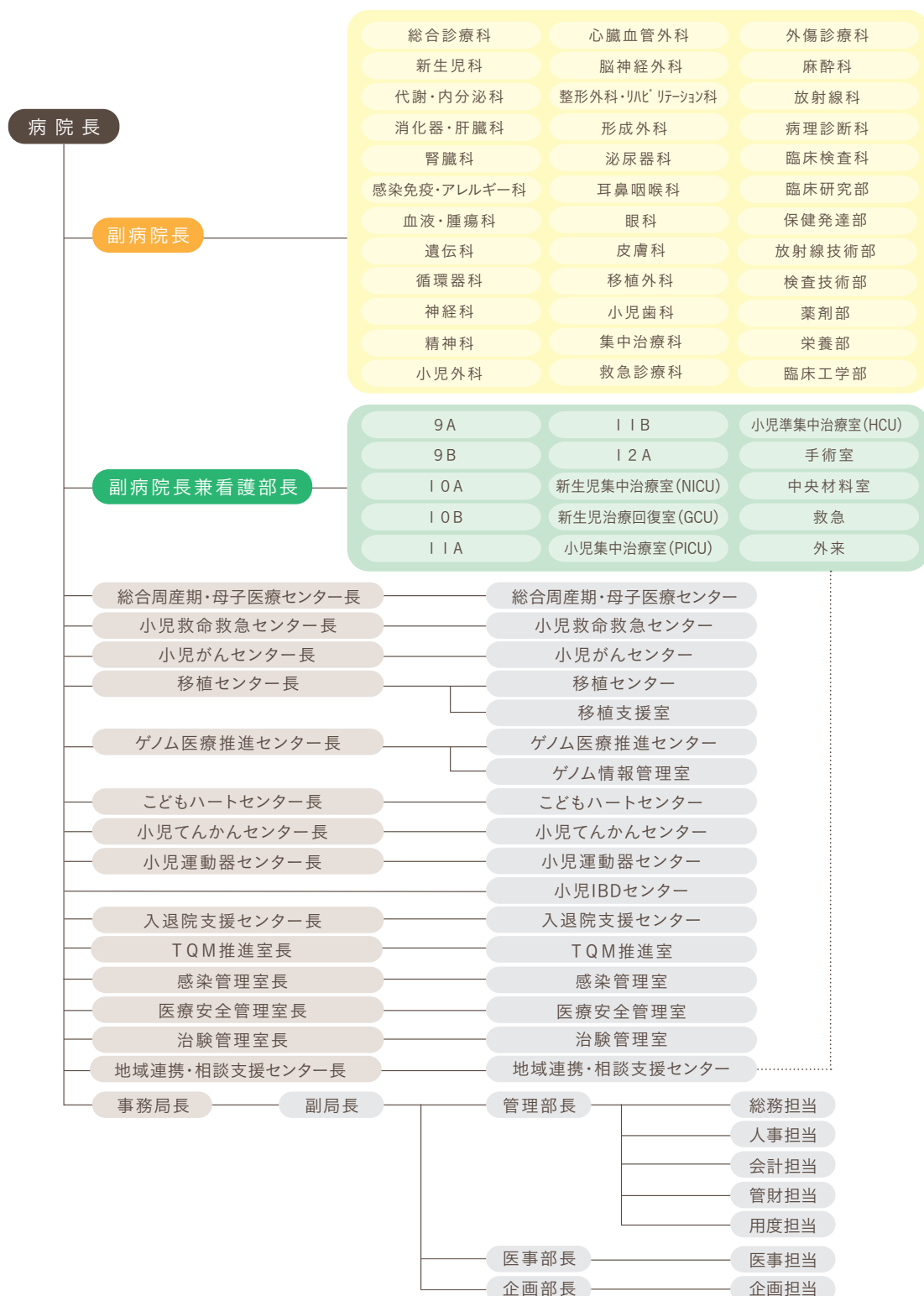
沿革

昭和53(1978)年	4月	埼玉県衛生部内に小児医療センター準備室を設置
昭和55(1980)年	8月	小児医療センター起工式举行、建設工事着工
昭和58(1983)年	3月	小児医療センター竣工式举行
	4月 1日	埼玉県立小児医療センターオープン(病床数189床)
昭和59(1984)年	4月 1日	病床数250に増床
昭和60(1985)年	4月 1日	病床数300に増床
	11月 1日	NICU設置(12床)
昭和61(1986)年	10月 1日	未熟児新生児搬送車の導入
平成 4(1992)年	3月 31日	MR棟増設工事完了、引受
平成 5(1993)年	5月 14日	天皇・皇后両陛下御視察
平成 6(1994)年	3月 31日	看護実習棟増設工事完了、引受
	6月 1日	NICU増床(3床増床、計15床)
平成10(1998)年	4月 1日	保健発達棟オープン
	10月 1日	地域医療支援病院の承認
平成12(2000)年	4月 1日	小児医療センター医療情報システム本稼働
平成13(2001)年	3月 30日	臨床研修指定病院の指定
平成14(2002)年	4月 1日	県病院事業に地方公営企業法を全部適用、病院局及び病院事業管理者を設置
	6月 3日	小児救急支援事業開始
平成15(2003)年	4月 1日	慢性疾患児家族宿泊施設オープン
平成19(2007)年	9月 1日	小児医療センター医療情報システム全面更新
平成22(2010)年	4月 1日	地域周産期母子医療センターの認定
平成25(2013)年	2月 8日	小児がん拠点病院の指定
	4月 1日	地域連携・相談支援センターの設置
	9月 24日	電子カルテシステム稼働
平成26(2014)年	2月 16日	さいたま新都心にて新病院建設工事着工
	4月 1日	DPC運用開始
平成28(2016)年	12月 27日	新病院オープン 病床数316に増床 PICU設置(14床)、HCU設置(20床)、NICU設置(30床)、GCU設置(48床) 救急病院等の告示
平成29(2017)年	1月 1日	小児救命救急センターの指定 総合周産期母子医療センターの指定
平成30(2018)年	3月 27日	がんゲノム医療連携病院の指定
平成31(2019)年	1月 1日	埼玉県災害拠点病院の指定
	4月 1日	移植センター、小児がんセンター、遺伝診療センター、TQM推進室、感染管理室 埼玉県移行期医療支援センターの設置
令和元(2019)年	5月 10日	病院機能評価認定(初回)
令和 2(2020)年	3月 5日	ISO15189の認定
	4月 1日	ゲノム情報管理室の設置
令和 3(2021)年	4月 1日	地方独立行政法人埼玉県立病院機構に移行 ゲノム医療推進センター、こどもハートセンターの設置
令和 5(2023)年	4月 1日	入退院支援センターの設置
令和 6(2024)年	4月 1日	小児てんかんセンター、小児運動器センターの設置
	5月 10日	病院機能評価認定(2回目)
	6月 21日	感染症医療機関(第1種、第2種)の指定
	9月 5日	特定行為研修指定研修機関の指定
令和 7(2025)年	4月 1日	小児IBDセンターの設置

施設の概要

所在地	さいたま市中央区新都心1-2	病床数	316床
敷地面積	10,031.17㎡	紹介等	医師による紹介制
延床面積	65,447.69㎡(特別支援学校等を含む)	駐車場	機械式駐車場320台(有料)
建築構造	鉄骨造・鉄筋コンクリート造(免震構造) 地下1階/地上13階建て		

組織図



幹部職員紹介



病院長
岡 明



副病院長
渡邊 彰二



副病院長
康 勝好



副病院長兼看護部長
中田 尚子



事務局長
濱田 賢治

患者紹介・予約方法について

■ 患者紹介・予約方法

当センターは、紹介予約制となっております。患者さんをご紹介いただく際には、予約する診療科名が入った診療情報提供書（紹介状）をご準備していただき、患者さんへお渡しください。

初診予約は、患者さんから直接当センターの予約専用電話にご連絡するようお願いください。

診療科によっては予約が先になる場合がございます。医療的に早期に診療が必要な場合は、地域連携・相談支援センター（代表電話 048-601-2200）にご相談ください。

■ 緊急診療（当日診療）の場合

緊急受診、緊急入院が必要とされる場合は、代表番号に電話していただき、緊急の依頼であることをお伝えください。

診療科の担当医師、又は救急診療科医師へおつなぎします。

■ 患者さん紹介の流れ（予約・お問い合わせ）

患者さん（ご家族）からの予約



医療機関の先生からの予約・お問い合わせ



診療時間

8:45~12:00、13:00~17:00

休診日

土曜日・日曜日、国民の祝日に関する法律で定める休日（2025年は5月6日、9月23日、11月24日を除く）
12月29日から翌年の1月3日まで

予約専用電話（平日）

受付時間 [初診] 14:00~17:00
[再診] 9:00~17:00

- 一般外来 ☎048-601-0489
- 保健発達部門 ☎048-601-2165

緊急診療の場合

☎ 代表電話

- 診療科が明確な場合は診療科の医師
- 診療科が不明確な場合は救急診療科の医師

早期に診療が必要な場合

☎ 代表電話

- 地域連携・相談支援センター（地域連携担当）

代表電話

☎048-601-2200

外来診療日程のご案内

埼玉県立小児医療センター 外来診療スケジュール

当センターは紹介制です。受診される方はあらかじめ電話にて予約のうえ、紹介状(診療情報提供書)を持参のうえ来院してください。

予約専用
電話番号

一般外来

☎048-601-0489

保健発達部門

☎048-601-2165(精神保健外来及び予防接種外来の予約に限ります。)

最新のスケジュールは当センターの
ホームページをご覧ください。



当センターホームページ
「外来診療日程」

電話受付時間は、初診予約は平日の午後2時から午後5時まで、再診予約は平日の午前9時から午後5時までとなります。

2025年6月現在

	診療科	月		火		水		木		金		
		AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	AM	PM	
内科系	総合診療科	青木 亮介	青木 亮介	田中 学	田中 学	野田 あんず	野田 あんず	田中 学	田中 学	担当医	杉山 正彦	
	新生児科			担当医	シナジス	担当医		胎児からだ外来	つくしんぼ外来	担当医		
	代謝・内分泌科	会津 克哉 千葉 悠太	会津 克哉 梁 偉博	会津 克哉	千葉 悠太	千葉 悠太	会津 克哉 梁 偉博	梁 偉博 会津 克哉②④	会津 克哉②④ 千葉 悠太	-	千葉 悠太②④ 会津 克哉	
	消化器・肝臓科	岩間 達	岩間 達	南部 隆亮	南部 隆亮	岩間 達	岩間 達	吉田 正司	吉田 正司	原 朋子	原 朋子	
	腎臓科	藤永 周一郎	櫻谷 浩志 三浦 健一郎②	藤永 周一郎	藤永 周一郎	小野 貴広	齋藤 彩	藤永 周一郎	仲川 真由 ①③⑤	櫻谷 浩志	谷本 亮輔 ①③⑤ 齋藤 佳奈子 ②④	
		-	夜尿外来②④				CAPD	夜尿外来	CAPD	夜尿外来	夜尿外来	
	感染免疫・アレルギー科	佐藤 智 古市 美穂子	菅沼 栄介	佐藤 智	佐藤 智 (リウマチ膠原病外来)	上島 洋二 (リウマチ膠原病外来)① 佐藤 智 (リウマチ膠原病外来)③⑤ 大石 勉②④	佐藤 智 (生活アレルギー)	上島 洋二	上島 洋二	菅沼 栄介①③ (サイトメガロウイルス外来) 菅沼 栄介 ②④⑤ 上島 洋二	佐藤 智 (生活アレルギー)	
		菅沼 栄介 (予防接種)	上島 洋二 (予防接種)			菅沼 栄介 (予防接種)	古市 美穂子 (予防接種)				菅沼 栄介 (予防接種)② 古市 美穂子 (予防接種)④	
	血液・腫瘍科	康 勝好	フォローアップ 三谷 友一	康 勝好	康 勝好 荒川 ゆうき	荒川 ゆうき 福岡 講平	大嶋 宏一 福岡 講平	康 勝好 三谷 友一		森 麻希子		
	遺伝科	遺伝相談 ①③	大場 大樹	大橋 博文	遺伝相談 ②④ (大橋 博文)	大場 大樹		大場 大樹 ①③④⑤	(大場 大樹)	大橋 博文	(大橋 博文)	
	循環器科	河内 貞貴 胎児ハート外来	星野 健司 増田 詩央	増田 詩央		真船 亮	河内 貞貴	胎児ハート外来 増田 詩央	星野 健司 (心臓検診外来) ①③ 増田 詩央	百木 恒太	星野 健司 胎児ハート外来 真船 亮	
神経科	松浦 隆樹	菊池 健二郎	平田 佑子		松浦 隆樹 代田 惇朗		小一原 玲子	岡 明	菊池 健二郎			
精神科	舟橋 敬一 平山 優美 ②④⑤	舟橋 敬一 平山 優美	舟橋 敬一 平山 優美	舟橋 敬一 平山 優美	舟橋 敬一 平山 優美	平山 優美	舟橋 敬一 平山 優美	舟橋 敬一 ①③⑤ 平山 優美	平山 優美	平山 優美		
中央診療部門	病理診断科									ゲノム医療外来		
外科系	小児外科	出家 亨一 海老原 統基		津坂 翔一 小川 祥子	術前検査	再診外来 ③	うさぎ外来 ①③	川嶋 寛 筒野 喬	術前検査			
	移植外科	水田 耕一 納屋 樹	水田 耕一 移植看護外来	水田 耕一 納屋 樹	水田 耕一					水田 耕一 納屋 樹	納屋 樹 移植看護外来	
	心臓血管外科			担当医	ペースメーカー外来			担当医	ペースメーカー外来			
	脳神経外科	栗原 淳				栗原 淳				宇佐美 憲一	栗原 淳① (赤ちゃんの頭の かたち外来)	
	整形外科			平良 勝章 根本 菜穂 及川 昇 町田 真理	(平良 勝章) 及川 昇 町田 真理 装具診	町田 正文 (側弯) ①	根本 菜穂 岡田 恭彰 町田 真理①③	平良 勝章 ①③ 町田 真理 (側弯)①③	平良 勝章 町田 真理 及川 昇 大島 洋平	野原 亜也斗 (側弯)②④ 町田 正文 (側弯)③ 根本 菜穂①③		
	形成外科	渡辺 あずさ 担当医	渡邊 彰二 ①②③⑤ 胎児おうち外来 担当医	担当医 片岡 美紗 ①③④⑤	担当医	担当医 口蓋裂言語 口蓋裂矯正	担当医 口蓋裂言語 口蓋裂術前 口蓋裂矯正	渡邊 彰二 ②③⑤ 担当医	担当医	渡辺 あずさ 担当医 片岡 美紗②	担当医	
	泌尿器科	吉澤 信輔	-	-	大橋 研介	小暮 慶太	多田 実②④ CIC④ 小林 堅一郎	-	吉澤 信輔 ①③ 堀 祐太郎 ②④⑤	大橋 研介 小暮 慶太	大橋 研介	
	耳鼻咽喉科			担当医①③ 気切② 難聴ペビー④	(担当医)	担当医	〔 担当医 〕	担当医 ③	〔 担当医 〕 ③			
	眼科	担当医				担当医				担当医		
	皮膚科	玉城 善史郎 北原 祐里恵	玉城 善史郎	玉城 善史郎 北原 祐里恵	-	-		北原 祐里恵 ①②④	玉城 善史郎 北原 祐里恵	玉城 善史郎 北原 祐里恵	玉城 善史郎	
	麻酔科	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	担当医	
	歯科	高橋 康男 武井 浩樹	高橋 康男 武井 浩樹	高橋 康男 武井 浩樹	高橋 康男 武井 浩樹	高橋 康男 武井 浩樹	高橋 康男 武井 浩樹	高橋 康男 武井 浩樹		高橋 康男 武井 浩樹	高橋 康男 武井 浩樹	
	レーザー		眼科 全麻処置	-	-	-	-	-	形成外科 局麻レーザー	-	皮膚科 局麻レーザー	
	保健発達	発達外来	小一原 玲子 ①③④⑤ 代田 惇朗	平田 佑子 ①②③	菊池 健二郎		平田 佑子 ①②③ 小一原 玲子		松浦 隆樹		平田 佑子	
		多職種プログラム 外来・集団外来	アセスメント	アセスメント	難聴ペビー ④	遺伝・症候群			PW(不定期) SH(不定期) かぶとむし(不定期) すくすく	もぐもぐ① D-K② つくしんぼ①③	癌縮治療外来 ①11時～	

※日程は変更になることがあります。

※土曜日、日曜日及び祝日、及び年末・年始(12月29日～1月3日)は休診です。

※担当医師欄の①～⑤は、第1△曜日～第5△曜日を表します。

セカンドオピニオン外来について

セカンドオピニオンとは、患者さんの病気の診断や治療方法について、主治医以外の専門医師の意見を聞くことにより、患者さんがよりよい治療方法を選択できるよう支援するものです。したがって、セカンドオピニオンを担当する医師は、患者さんの診療を行うものではなく、主治医から提供された診療情報を基に、治療方法等について専門医師としての意見を述べるもので、治療や検査は行いません。

診療科によってはお受けできない場合があります。なお、オンラインでの実施には対応していません。

■ 対 象

患者さん本人又はその保護者からの相談
現在治療中の疾病等に関する相談

次に掲げるものは対象外となります。

- 当センターに対応する診療科がないもの
- 当センターへの転院を目的とするもの
- 当センターでの治療・検査を目的とするもの
- 主治医からの診療情報提供がないもの
- 既に終了している過去の医療行為に関するもの
- 他の医療機関における医療過誤の有無に関するもの
- 産科医療補償制度に関するもの
- 死亡、裁判係争中のもの

■ 申込方法

セカンドオピニオン外来申込書（ホームページから様式をダウンロードできます）にご記入の上、下記担当宛てに郵送又はファックスでお送りください。申込書到着後に、希望日時等を踏まえ実施日時を調整し、ご連絡いたします。

■ 料 金

セカンドオピニオン外来は健康保険が適用されません。全て自費扱いとなりますのでご了承ください。

● 料金表（全て税込み）

2025年6月30日までのご相談

基本料金最初の30分まで	11,200円
以後30分ごと	5,600円

2025年7月1日以降のご相談

基本料金最初の30分まで	19,800円
以後30分ごと	11,000円

※所要時間は、60分以内を目安としています。上記時間には、文書作成の時間を含みます。

※2025年7月1日以降に来院されるセカンドオピニオンのご相談については、料金を改定させていただきますので、ご了承ください。

■ 診療情報提供書（紹介状）作成時のお願い

セカンドオピニオン用の診療情報提供書（紹介状）の作成をお願いします。

※通常の診療とは料金、予約方法が異なります。通常診療の診療情報提供書（紹介状）には、「セカンドオピニオン」の文言をご使用にならないよう併せてお願いします。

お問い合わせ

埼玉県立小児医療センター 医事担当 （平日）8:30～17:00

申込書送付先

住所:〒330-8777

さいたま市中央区新都心1-2

TEL 048-601-2200

FAX 048-601-2224

各種センターのご案内

小児がんセンター

当センターは、白血病などの小児の血液がんの患者数が日本一多い病院です。固形がんもほとんど全ての種類の小児がんの診療を行うことが可能です。豊富な臨床経験に加えて、国内・海外の最新の情報を収集することにより最善の治療を行うように努力しています。治療成績を改善するための小児がんの臨床試験にも積極的に参加しており、日本小児がん研究グループ(JCCG)の臨床試験の登録患者数は日本一です。

さらに最近ではCAR-T療法やゲノム医療などの最先端の医療にもいち早く取り組んでいます。

小児がん拠点病院として、他の小児がん拠点病院及び小児がん診療施設と連携しながら、埼玉県内はもとより、関東甲信越地域ひいては日本全体の小児がん診療のレベル向上に全力を尽くします。

詳細につきましては、血液・腫瘍科のページをご覧ください。

血液・腫瘍科…………… P13

ゲノム医療推進センター

当センターは2018年3月にがんゲノム医療連携病院に指定され、院内に遺伝診療センターを設置しました。

がん遺伝子パネル検査を行いCAR-T細胞療法など行うとともに、先天性疾患・希少難病・重症疾患を対象に次世代シーケンサーによる遺伝的診察・検査・カウンセリングを行ってまいりました。

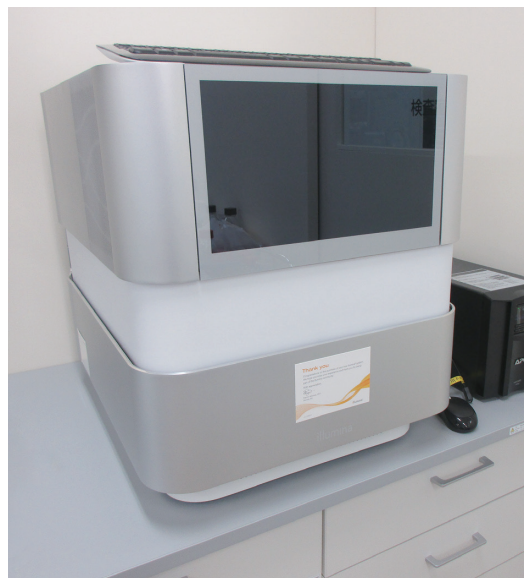
これを発展させ、2021年4月、ゲノム医療推進センターを設置しました。他医療機関や埼玉県立がんセンターと連携を図るとともに、大学・研究機関との共同研究やバイオ企業との産学連携を図ってまいります。

詳細につきましては血液・腫瘍科、遺伝科、臨床研究部のページをご覧ください。

血液・腫瘍科…………… P13

遺伝科…………… P14

臨床研究部…………… P36



次世代シーケンサー

こどもハートセンター

2021年4月、こどもハートセンターを設置しました。

先天性心疾患や後天性心疾患、不整脈、川崎病を対象に、①先天性心疾患治療施設の集約化に向けた基盤強化、②高い専門性を持ったスタッフ(医師、看護師、コメディカル)の集約化、③さいたま赤十字病院の協力による胎児期から成人期までの切れ目のない診療、④心臓リハビリを含むホリスティック医療に取り組んでまいります。

詳細につきましては、新生児科、循環器科、心臓血管外科のページをご覧ください。

新生児科…………… P08

循環器科…………… P15

心臓血管外科…………… P19

小児救命救急センター

小児救命救急センターとは、地域の小児の重篤な救急患者さんを24時間・365日いつでも受け入れ、救命治療を行う施設のことです。当センターでは、2017年に事業指定されました。2025年現在、全国19か所の病院で運営されています。

この小児救命救急センターは、救急診療科・集中治療科・外傷診療科という三つの診療科と、小児集中治療室(PICU)・準集中治療室(HCU)・救急外来(ER)という病棟・外来の看護単位により構成されています。

近年はPICU・HCUへの入室が年間延べ3,000人、ERへの救急車受入れは年間2,500台という状況です。

今後も地域の医療機関と緊密な連携を取りながら、患者さんを中心にした、より良い急性期高度医療をスタッフ一同、チームで提供してまいります。

詳細につきましては、救急診療科、集中治療科、外傷診療科のページをご覧ください。

[集中治療科](#)……………P29

[救急診療科](#)……………P30

[外傷診療科](#)……………P31

				2016年度※	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
ER受診患者数				1,154	5,321	5,179	5,389	4,797	6,114	6,840	7,131	6,499
救急車受入れ台数				425	1,959	2,031	2,162	1,749	2,766	2,976	2,830	2,432
ドクターカー出動件数				12	77	151	178	135	162	161	174	179
ERからの入院率				24.4%	25.4%	27.5%	22.8%	23.7%	23.2%	22.3%	24.9%	25.7%
PICU入室者数				146	642	624	699	562	664	702	709	708
HCU入室者数				264	1,392	1,698	1,808	1,725	2,075	2,232	2,344	2,367
入室 経路	PICU	救急	直送	20	77	76	76	53	75	104	88	90
			転送	34	169	164	204	103	143	189	195	185
		術後管理		76	347	316	353	352	371	327	347	348
		病棟から		8	47	67	66	53	74	77	78	78
		その他		8	2	1	0	1	1	5	1	7
	HCU	救急	直送	111	482	543	491	429	537	554	603	563
			転送	50	306	365	403	319	329	404	476	466
		術後管理		75	461	630	776	852	1,046	1,097	1,085	1,153
		病棟から		15	99	118	98	93	116	117	126	133
		その他		13	44	42	40	32	47	60	54	52
病院間集中治療搬送数				25	107	92	109	59	59	80	85	87

※2016年12月27日から2017年3月31日まで

移植センター

2019年4月、隣接するさいたま赤十字病院と当センターの2施設により、「さいたま新都心医療拠点移植センター」を開設し、同年9月に第1例目の生体肝移植を開始しました。

ドナー手術はさいたま赤十字病院消化器外科が担当し、レシピエント手術は当センターの移植外科、小児外科、形成外科が連携して行っています。廊下でつながりながらも運営母体が異なる2施設による臓器移植医療は国内初の取組であり、新たな医療体制のロールモデルとなっています。

2019年度以降の累積生体肝移植件数は52例であり、患者生存率・グラフト生存率ともに98%を維持しています。2022年度に腹腔鏡下肝ドナー手術が保険適用となり、当移植センターでも同年度より導入しました。2025年3月現在までに21例を安全に実施しており、国内で最多の実績を誇ります。

詳細につきましては移植外科のページをご覧ください。

[移植外科](#)…………… P27

小児てんかんセンター

2024年4月から小児てんかんセンターを開設しました。今までは小児てんかんに対して内科的な治療が主体でしたが、このたび脳神経外科治療を実施できる体制が整ったことからセンター化されました。てんかんの発症率は約1%とされており、小児科診療の中でも大変重要な疾患の一つです。さらに、てんかんという疾患への偏見、差別という社会的問題、それに伴う心の傷・スティグマもあります。

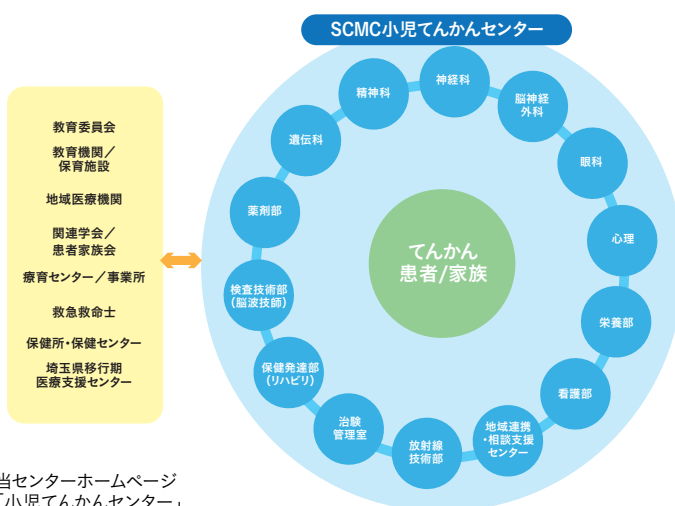
当センターでは他診療科及び他部門と連携し、「こどもとその家族」を中心に、医療面及び心理社会面から支援する包括的なてんかん診療を実施してまいりたいと思います。

詳細につきましては、神経科、脳神経外科のページをご覧ください。

神経科……………P16
脳神経外科……………P20



当センターホームページ
「小児てんかんセンター」



小児運動器センター

2024年4月から小児運動器センターを開設しました。

これから加速する少子高齢化社会に向けて小児運動器疾患をより詳細に「個別化の医療」を提供できるようにしました。四つの部門（脳性麻痺部門、スポーツ部門、血液・がん部門、発達・運動部門）と各部門で蓄積されたデータを活用する「学術・分析部門」を設け、整形外科医師、PT、OT、地域の療育センターで協力し包括的な診療を目指します。

詳細につきましては、整形外科のページをご覧ください。

整形外科……………P21 スタッフ一同



小児 IBD センター

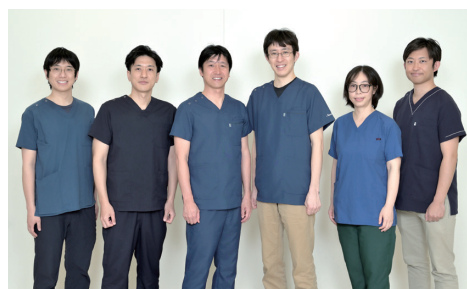
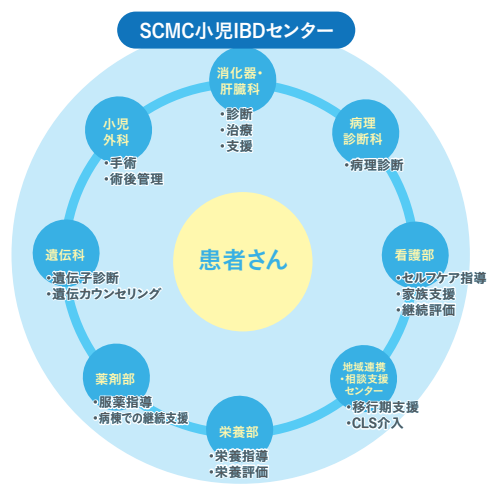
炎症性腸疾患 (Inflammatory Bowel Disease*) を抱えるこどもたちを支える「チーム医療」を実践する組織として、2025年4月に「小児IBDセンター」を発足しました。

本邦におけるIBDの患者数は増加の一途をたどっており、最新の調査では潰瘍性大腸炎は約32万人、クローン病が9万5千人と報告されています。潰瘍性大腸炎に至っては世界第2位の患者数とされています。

小児においても本邦、世界で患者数の増加が報告されており、当センターでも新患者数が増加しています。小児IBDは小学校高学年から中学生にかけての年齢に発症しますが、この年齢層はいわゆる思春期にあたり、第2次性徴などの身体の変化に学業・人間関係などの社会生活の変化も加わり、健康なこどもたちでさえ心身に問題が生じることがあります。その不安定な時期に、IBDを発症したこどもたちの負担の大きさは我々の想像をこえます。IBDにかぎらず慢性疾患を抱えるこどもたちを医療のみでなくトータルで支えるためには医師のみでなく多くの医療従事者の協力が必要です。

小児IBDセンターは、消化器・肝臓科を中心に、病理診断科、小児外科、遺伝科の各診療科、看護師、薬剤師、管理栄養士、チャイルド・ライフ・スペシャリスト、ソーシャルワーカーなどの多職種連携により、患者さんご家族に最善の医療が届けられるよう活動していきます。

*IBD (Inflammatory Bowel Disease) : 潰瘍性大腸炎 (Ulcerative Colitis) とクローン病 (Crohn's Disease) の総称



消化器・肝臓科 スタッフ一同